

全経上級解答速報

模範解答および採点基準は、学校法人大原学園が独自の見解で作成しており、試験機関による本試験の結果等について保証するものではありません。また、予告なしに内容を変更する場合があります。模範解答等の著作権は学校法人大原学園に帰属します。

全経上級商業簿記模範解答

問題 1

問 1	1	2	3	4	5
	開始残高勘定 ④	合計試算表 ④	残高試算表 ④	閉鎖残高勘定 ④	繰越試算表 ④

問 2	ア	イ	ウ	エ	④
-----	---	---	---	---	---

問 3	仕訳帳の最初に繰越試算表の合計額を前期繰越として記入する。	④
-----	-------------------------------	---

問 4	特殊仕訳帳としての売上帳から直接に総勘定元帳へ転記すると、売上帳に仕訳された売上取引分だけ普通仕訳帳の合計と合計試算表の合計が一致なくなり、照合機能が失われる。	④
-----	--	---

問 5	合計転記仕訳	④
-----	--------	---

問 6	精算勘定	④
-----	------	---

問題 2

損益計算書*

(借方)		(貸方)	
<営業費用>		<営業収益>	
③ 仕 入	(96,000,000)	売 上	(145,000,000) ③
③ 広告宣伝費	(670,000)	()	()
③ 貸倒引当金繰入額	(110,000)	<営業外収益・特別利益等>	
給 料	18,000,000	受 取 配 当 金	19,000
③ (退職給付費用)	(8,260,000)	(受 取 利 息)	(1,000) ③
③ 減価償却費	(1,630,000)	(法人税等調整額)	(80,000) ③
支払賃借料	12,000,000	()	()
営業諸掛り	4,150,000	()	()
()	()		
()	()		
<営業外費用・特別損失等>			
支払利息	85,000		
手形保証債務費	(5,000)		
③ (為替差損)	(150,000)		
③ (有価証券運用損)	(10,000)		
()	()		
()	()		
③ (営業外)貸倒引当金繰入額	(680,000)		
減損損失	(350,000)		
法人税等	(1,000,000)		
当期純利益	(2,000,000)		
	(145,100,000)		(145,100,000)

[注] 総ての空欄が埋まるとは限らない。
 指示したように、営業、営業外・特別損益等と区分して解答すること。
 桁はそろえる。そろえていない答案は採点しない。金額にカンマを打っても構わない。

全経上級会計学模範解答

問題 1

番号	正誤欄	理 由
1	○ ②	
2	○ ②	
3	× ②	前払費用については一年基準が適用されるが、未収収益、未払費用、前受収益については一年基準の適用はない。 ③
4	× ②	会計期間末において、その他資本剰余金を零とし、当該負の値をその他利益剰余金（繰越利益剰余金）で補てんする。 ③
5	× ②	洗替え法と切放し法の選択は、棚卸資産の種類ごとに行う。 ③
6	× ②	減損の存在が相当程度確実な場合に限り減損損失を認識及び測定することとしているなどにより、減損損失の戻入は行わない。 ③
7	× ②	法人税等の税率に変更があった場合には、過年度に計上された繰延税金資産又は繰延税金負債を新たな税率に基づき再計算する。 ③
8	○ ②	
9	× ②	所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却費は、リース期間を耐用年数とし、残存価額はゼロとして算定する。 ③
10	○ ②	

問題 2

問 1

記号	用 語
(a)	取得価額 ⑥
(b)	貸倒引当金 ⑥
(c)	金利の調整 ⑥
(d)	利息法 ⑥
(e)	継続適用 ⑥

問 2

償却原価法を適用する場合の取得価額に加減する額は受取利息又は支払利息に含めて処理する。

⑧

問 3

利息の合理的な期間配分を目的とすれば、利息法を適用すべきであるが、当該方法の計算の複雑性を考慮して、単純な計算方法である定額法が簡便法として認められる。

⑧

問題 3

問 1

連結会社相互間における商品売買その他の取引は、企業集団内の取引にすぎないため、これらに係る項目は、連結財務諸表の作成上、相殺消去しなければならない。

⑧

問 2

親会社は、株式の取得を通じて子会社の資産を支配することになるため、通常の資産の取得と同様に、支配獲得日の時価をもって資産を評価する必要がある。

⑧

全経上級工業簿記模範解答

問題 1

問 1

(第2工程仕掛品) 1,562,000 / (第1工程仕掛品) 1,562,000 ⑩

問 2

正常減損費

前工程費分 (62,480) 円 ⑤

加工費分 (9,680) 円 ⑤

合計 (72,160) 円

計算過程

$$\text{前工程費分} \frac{1,562,000}{9,930 - 2,200 + 440 + 80 + 2,750} \times 440 = 62,480$$

$$\text{加工費分} \frac{606,430}{9,930 - 1,320 + 176 + 40 + 2,200} \times 176 = 9,680$$

$$\text{合計} \quad \quad \quad \underline{\underline{72,160}}$$

問 3 第2工程仕掛品勘定月末残高 (530,435) 円 ⑩

問 4

(製 品) 1,998,435 / (第2工程仕掛品) 1,998,435 ⑩

問 5

前工程費分正常減損費 (62,480) 円

加工費分正常減損費 (12,052) 円 ⑤

加工費分正常減損費の計算過程

$$\frac{606,430}{9,930 - 1,320 + 220 + 40 + 2,200} \times 220 = 12,052$$

問 6

第2工程仕掛品勘定月末残高 (526,187) 円 ⑩

問 7

(製 品) 2,002,692 / (第2工程仕掛品) 2,002,692 ⑩

問 8

(平 均) 法 ⑩

問題 2

賃 金			
(諸口)	5,585,000	(未払賃金)	1,175,000 ⑤
(未払賃金)	1,135,000	(仕掛品)	3,973,000 ⑤
()		(製造間接費)	1,478,650 ⑤
()		(賃率差異)	93,350 ⑩
	<u>6,720,000</u>		<u>6,720,000</u>

全経上級原価計算模範解答

問題 1

問 1 キャッシュインフロー

第 1 年度 円 ⑤4 年間の合計 円 ⑤問 2 会計的利益率 % ⑩問 3 回収期間 ⑩問 4 内部利益率 % ⑩問 5 収益性指数が なので、当案の採用は ⑩問 6 ⑩

問題 2

問 1 (-) 万円 ⑤問 2 (+) 万円 ⑤問 3 ① (-) 万円 ⑤② (+) 万円 ⑤③ (+) 万円 ⑤問 4 正味現在価値 (+) 万円 ⑩ ⑤